

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0193700010		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホームぬく杜の郷・しおさい		
所在地	〒049-5415 虻田郡豊浦町字浜町17-3 (電 話) 0142-83-7711		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月28日	評価確定日	平成21年10月6日

【情報提供票より】 (平成21年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12人	

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷 金	有 (円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,150 円		

(4) 利用者の概要 (8月 13日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊浦町国民健康保険病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は海岸公園に位置し、海を望むことができ緑が豊かな立地となっている。建物には同一法人のデイサービスセンターと一般向けの喫茶店・交流スペースが併設されており、多目的な活動と地域住民とのふれあいの場が確保されている。また、母体法人は数多くの介護事業を地域で展開しており、豊富なノウハウや経験知識の蓄積がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、主だった改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価、自己評価については、職員全員で取り組んでおり、意義も十分に理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、地域代表、行政、家族代表、各ユニット職員で構成し、運営している。討議内容も事業所の行事報告に留まらず、認知症サポーター養成講座の開催についてなど、地域へ積極的に関わるよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者家族への働きかけは日常的に行っており、意見や苦情を積極的に受け入れる体制を整えている。定期的に発行しているホーム便りの活用や、電話での報告等で利用者の日常生活を家族に知らせ、いつも不安のない生活が出来るように支援している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への加入は、地元からの要請で実現してはいないが、地域での祭りや催し物に参加している。また、職員の多くは、近隣で生活しており、地域と自然な交流がなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他に、各ユニットごとに独自の理念を掲げており、地域の一員としての自覚やサービス向上の礎としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員は理念カードを常時携帯しており、理念の重要性を理解し、援助サービスに活かすよう取り組んでいる。「理念という基本精神を常時検証する」という積極的な意思が認められる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係は、密接に保たれている。職員の多くが近隣地域で生活しており、友好的な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価に真剣に取り組んでおり、実施する意義への理解も深い。実質的に年に2回の自己評価を実施し、サービスの検証・点検を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域代表や行政職・家族等に留まらず、各ユニット職員も参加しており、有意義な提案等に即応できる体制となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは、月1度のケア会議を開いており、いつでもどのような相談もできる関係である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に利用者の日常生活について、毎月定期的に報告をしている。また、ホーム便りもユニットごとに発行して、利用者の情報を家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時などには、家族等から必ず何らかの希望や意見をもらえるように努め、ふれあい箱の設置や苦情などの連絡先の明示を行っている。出された意見等について検討の過程と結果を報告し、同意を得るように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係性がマンネリ化とならないよう注意しながら、事前の十分な説明と継続性をもった取り組みへの配慮により、職員のユニット間の異動が行われており、大きな支障とはなっていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での泊り込み研修や事業所内での個別育成の対応など、研修の機会を多く設けている。外部の講演会等についても、周知し参加を呼びかけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム職員連絡会に加入し、各事業所との情報交換やネットワークづくりを通してケアサービス向上に努めている。法人内には、3つのグループホームがあり、頻繁に情報の共有に力を入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の利用については、見学や体験を通してなじんでもらい、利用開始後も徐々にサービスと結び付くような自然な援助を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が要介護者として暮らすのではなく、共に支えあう関係を基本として、信頼感のある関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護者の都合や視点で接するのではなく、利用者の意向や希望が何かを知る介護に取り組んでいる。利用者の表面的な平穏に満足せず、常にその人の立場や思いに触れようとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を十分に検討把握し、担当スタッフと計画作成者で介護計画を作成している。また、完成した介護計画については、家族等に説明して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月で見直すが、病状などの変化により現状に即して変更できる体制となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的・突発的な通院や突然の入浴希望など、多種多様な要望に対して、柔軟に対応出来るように努め、工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医をかかりつけ医として勧めているが、従前の医師を希望する場合は、通院などを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のありかたについて、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や見取りについて文章化し、家族へ説明して同意を得ている。重度化や終末期のあり方については、職員への研修を実施するとともに、かかりつけ医との連携を重ねながら方針の共有化に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の観点から、日々の声かけにも細心の注意を心がけている。個人台帳等も別室に保管し、適切に管理している。また、法人内に「人権尊重」委員会があり、一人ひとりの誇りやプライバシーが損ねられることがないよう定期的な確認を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりがその日をどのように過ごしたいか任せるだけではなく、これまでに把握している利用者のニーズに沿って呼びかけたり、促すことしながら生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の調理や配膳、後片付け等の各段階で、利用者の意向に配慮し、能力や気分に合わせて手伝いをお願いしたり、献立の話等で食欲を刺激したりしながら、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や曜日にとらわれずに、入浴を実施している。同性による介護や近所の温泉での入浴についても、継続的に実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴や日ごろの暮らしぶりから、好きなことや得意なことを見つけるようにし、張り合いや喜びがある楽しい時間を過ごすように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出について、ホームに閉じこもらないという観点から、散歩や買物、庭仕事、日光浴、花見等の外出支援を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上の理由から夜だけであり、昨年改善の要望があった、ユニット入り口のチャイムも日中は制限している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月・6月・11月の年に3回、防災訓練を行っており、6月の時は夜間訓練として実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取について気を配っており、注意すべき利用者にはチェック表にて管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内には家庭的な工夫が見られ、ゆっくりとしたスペースとなっている。一階と二階とも廊下の奥が喫煙コーナーとなっている。利用者と職員が喫煙しているが、構造上完全な分煙となっていない。	○	分煙が充分ではないことから、利用者の居住空間の空気を汚すこととなっており、喫煙する介護者は、喫煙コーナーを利用する時は十分に注意するとともに、完全分煙を行うことが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始前に使い慣れた家財の持込みを説明しているが、十分に理解されていないと認識している。今後は、説明だけではなく、利用者が居心地よく過ごせるよう生活を共にした家財の指定持参を依頼しようと考えている。	○	利用開始時の説明を充分に行うとともに、より具体的に生活を共にした家財を指定し、持参することまで依頼するなど、本人がより一層居心地よく過ごせるよう工夫することを期待したい。

※  は、重点項目。